

四季の室礼

《 端午の節供 》

室礼（しつらい）は季節や人生の節目に感謝、もてなし、祈願などの心を添えてしつらいます。室礼を知って頂くことで、より豊かに生活を楽しんで頂けると幸いです。

参考 生活文化 室礼三千



端午の節供の「端」は「初」という意味。「端午」は月の初めの午の日を表します。午（ご）が（五）に通じ、数を重ねることを重んじる風習から古来中国では、5月5日に祭りを行いました。

旧暦の5月は高温多湿で伝染病や害虫が発生する時期です。

菖蒲や蓬は香りが強く薬効に優れたことから、門戸に架けて魔除けにしたり、菖蒲酒を飲んで、悪鬼を祓い無病息災を祈りました。

鯉のぼりⅡ最初は真鯉（黒い鯉）のみで、明治以降赤い緋鯉が加わった。現在は子鯉を子供の人数分飾ることもある。



粽は関西、柏餅は関東が中心

五月の節供に粽を食べるようになったのは、中国が起源といわれています。中国では古来、粽は水神への捧げ物でした。それが、「屈原くわんげんという王族が川に身を投げ、命日に粽を投げ入れ供養した」という古事と結びついて、屈原の命日の五月五日に粽を食べられるようになり、日本に伝わりました。「チマキ」とは本来、チⅡ茅萱で巻いた餅のことです。茅萱には呪力があると考えられ、魔除けに使われてきました。柏餅が端午の節供に登場するのは江戸時代です。「柏の葉は新芽が出るまで古い葉が落ちない」ことから、家が絶えない、子孫繁栄の縁起物になりました。

（文Ⅱ日本の楽しみ帖参考）

